

いよいよ本格的な冬の到来となりましたが、鉄の相場は益々ヒートアップしています。ステンレス、アルミと他の素材関係も上昇しており、デフレとは程遠い動きに違和感もありながらの年末となりました。

鉄スクラップ市況

今年もいよいよ押し詰まってまいりました。ここでこの一年の動きを振り返ってみたいと思います。昨年から続いている価格上昇は、年を越えても相変わらずの上昇局面であり、二月末の発生期を迎え、漸く下げ局面となりました。しかしそれも束の間であり、七月から再び上昇局面となり、現在に至っています。

関東圏での指標として東京製鐵(株)宇都宮工場がありますが、この一年の値動きは、二十回におよびこの中で値上げは十三回となっています。十二月十日現在、年初価格と比べて二十三パーセントアップとなっています。この値上がり



長沼商事株式会社

埼玉県所沢市林 1-306-7

りは、中国を含めた東南アジアでの需要によるものです。また、台湾、韓国といった大手需要国でも鉄スクラップが不足しており、日本から大量に輸出されています。その為、為替が円高に振れているにも関わらず、スクラップ価格の上昇が続いています。中国などは、急激な経済成長に素材供給が追いつかず、操業を停止しているメーカーも有るようです。また、その影響としてスクラップ原料を輸送する船も不足しており、船舶マーケットは活況を呈しており、船舶自体の製造も大量発注が計画されていますが、建造が間

に合わず、数年先まで落ち着かないのではないかと予測もありません。鉄スクラップから生産される丸棒等は国内商品ですが、スクラップ自体はすでに国際商品として世界各地で動いています。アメリカ等は一船、三万トン程度の単位で輸出されており、中国等の需要国でもそれに対する受け入れ態勢を整えています。それに比べ、日本の港湾能力は貧弱であり、四千トン程度が主流といったありさまで、一般貨物でも、アメリカの船が日本を素通りし、上海に陸揚げし、再度日本に運ぶ事も珍しく無いようです。高速道路建設も無いですが、国際社会の中での日本のポジションも戦略的に考えていかないとどんどん後れていってしまいます。もう既に空港では負けているのですから。

今、我々の業界団体である、(社)日本鉄リサイクル工業会でも輸出ポートの建設を国に働きかけています。世界的な需要地域であるアジアの中の一国として国際競争力が落ちない内に、一刻も早い整備が望まれる所です。

アジア圏でのリサイクル

現在、鉄スクラップは国際商品

として広く流通していますが、それ以外にも、中国等の安い人件費等を背景に機械解体物等が日本各地から輸出されています。解体分別後の商品(鉄、銅、アルミ等)は国際価格で取引される為、日本の価格と変わりません。現在、中国国内での受け入れ態勢も整備されつつあり、屋内ヤード、油水分離等整備が進んでおり、品物のリサイクル率もさることながら、環境面での整備も進んでいる様です。

早稲田大学の永田先生という環境面で有名な方がおられますが、やはりパーゼル条約を越えた所での廃棄物処理の提案をなさっています。各国がそれぞれ得意な手法を用い、如何に無害化、再資源化出来るかを最重要視しての提案なのです。すでにEUではこのテーマに取り組んでいます。今後の動向に注目したい所です。

今年も一年間大変お世話になりました。来年も皆様にとつてよりよい年でありますように。